

■なぜだろう放置自転車	2
■年末年始の業務案内	7
■川越市農業委員会委員一般選挙	8
■市長への提案からNo.1	9
■戦没者の妻・父母などの特別給付金	10
■表通り 裏通り わが家の手づくり味噌	14

川越駅西口の放置自転車保管場所(新宿町1)



# なぜだらう

放置自転車

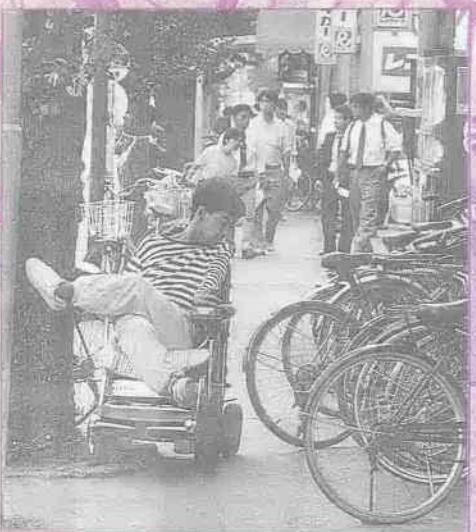
駅周辺に自転車が放置されるのは、なぜだろう。  
放置自転車がよくないのは、なぜだろう。

解決に時間がかかるといわれるのは、なぜだろう。

## ここは、どこの細道じや

川越が発祥の地といわれる童謡「とおりやんせ」では、かつて城内にあつた天神様の参道を「ここはどこの細道じや、天神様の細道じや」と歌っています。また、市内には城下町特有の狭く、曲がりくねった道も残っています。

一方、駅周辺に目を向けると、こうしたものとは無縁の細道が見られます。放置自転車によつて狭められた歩道は、通行を妨げ、景観を害します。それなら道を広々すれば? 例え「狭い道路」を広くしても「自分だけよければそれでいい」「みんながやつているからまわない」という意識がある以上、放置する場所を広げたことになり、住む人のモラルさえも低下させてしまいます。



## 迷惑を越えて危険

駅前周辺の放置自転車がどうのよなものが、川越駅西口に行つてました。いぢん驚かされたのは、点字ブロックの上に止められた自転車。二ページの写真は、県立盲学校のスクールバスの停留所です。バスが止まるのは朝夕だからかまわないと思ったのでしょうか。この自転車の所有者が、点字ブロックについて理解してくれる事を祈る思いでした。

放置自転車というと引き合いに出される点字ブロック。良識のある方には、あたりまえのことでも事情を知らない方には、考るところがないものなのかもしれません。

しかし、その凹凸または周囲のブロックとの色の差を頼りに歩く視覚障害者にとって、生命にもかかる大きな問題になると知つてしまいものです。

社会福祉協議会が開催するボランティア体験講座には、盲人ガイ

ドヘルパーの講習があります。参加者は、二人一組になり、一人がアイマスクを着け視覚障害者に、もう一人がヘルパーになつて案内しながら歩道を歩きます。講習を受けたほとんどの人が何も見えないことの恐怖と同時に案内の難しさを感じるようです。皆さんほど

わる大きな問題になると知つてしまいますか。

## 放置から処分まで

放置自転車の撤去作業に同行しました。放置自転車の撤去は「川越市自転車放置防止条例」に基づいて行われます。川越駅西口の場合は、撤去の一週間前に該当する自転車を適切な場所に移動するよう警告し、撤去当日も広報しながら作業。道路や歩道に放置されたすべての放置自転車を等しく、例えかぎがかかるつても自転車保管場所に移します。

市内の各駅周辺から撤去された自転車は、同条例に基づき保管されると同時に撤去、保管の旨を本

事務所前の掲示板に告示します。こ

れにあわせて車体の表示（記名）、防犯登録などから所有者がわかる場合は、個々に連絡。引き取る人がいない自転車については無主物が先占の告示を行います。この保管期間（およそ三ヶ月間）内に返還申請があれば所有者に返還され、無い場合は処分ということになります。

自転車は、歩くより速く移動でき、手で持つより楽に荷物を運べ、重々しい鎖によつて自由を奪われた保管場所の自転車。自分で動くことができない自転車にとつては、駅前に放置されたり拘束されたりすることは不本意に違ひありません。その罪は、いつたいだれにあるのでしよう。もしも自転車がこのままに放置されたり拘束されたりすることは、不本意に違ひありません。

具です。

道具は、使う人があつて生命が宿り、使うにしたがつて「もの」から使う人と密接な関係を持つパートナーになります。自転車に命を与えているのは、私たちであるとすると、放置された自転車は、その所有者または利用者の姿ともいえそうです。

放置自転車の解決にとつて自転車駐車場の整備は、重要な要素のひとつ。ところが、駐輪施設は駅の近くにあることが求められるため、土地の確保が難しがつたり、地価が高く購入または賃借に経費がかかりります。とにかく、放置のため、自転車用状況から、おむね自転車が収容可能。収容量を超えている駅については、自転車の依存度が高い方が利用できるよう歩ける方には、なるべく歩いていた大切な、協力を仰がなければならぬのが現状です。

## 私たちにできること、行うこと

施設は自宅と駅の経路上になければ、利用されにくといわれま

る重々しい鎖によつて自由を奪わ

れた保管場所の自転車。自分で動くことができない自転車にとつては、駅前に放置されたり拘束されたりすることは、不本意に違ひません。

自転車は、歩くより速く移動でき、手で持つより楽に荷物を運べ、重々しい鎖によつて自由を奪われた保管場所の自転車。自分で動くことができない自転車にとつては、駅前に放置されたり拘束されたりすることは、不本意に違ひません。それは、所有者が責任を持つ引き取りに來てくれるならばかかる事はない。もつとも、それ以前に自転車がきちんと駐車場等に置かれていれば撤去、保管の費用もかからないのです。

自転車は、歩くより速く移動でき、手で持つより楽に荷物を運べ、重々しい鎖によつて自由を奪われた保管場所の自転車。自分で動くことができない自転車にとつては、駅前に放置されたり拘束されたりすることは、不本意に違ひません。それは、所有者が責任を持つ引き取りに來てくれるならばかかる事はない。もつとも、それ以前に自転車がきちんと駐車場等に置かれていれば撤去、保管の費用もかからないのです。

自転車は、歩くより速く移動でき、手で持つより楽に荷物を運べ、重々しい鎖によつて自由を奪われた保管場所の自転車。自分で動くことができない自転車にとつては、駅前に放置されたり拘束されたりすることは、不本意に違ひません。それは、所有者が責任を持つ引き取りに來てくれるならばかかる事はない。もつとも、それ以前に自転車がきちんと駐車場等に置かれていれば撤去、保管の費用もかからないのです。

自転車の放置を防止する理由のひとつに「まちのイメージ」があります。例えば、友達や親せきの方または仕事などで川越を訪れた人が、駅舎から出て「キタナイマチ」と思つたら、皆さんはどのような感じますか。

駅は、まちの玄関。その玄関に立つたとき、そのまちの印象が決まります。そこには、住む人の考え方があるとすると、「川越人」は、どのような人になります。川越人は、どのような人になります。それが頭をよぎりました。

放置自転車は、なぜなくならないことがあります。それは、施設整備以外に

## これもまちづくりのひとつ

「自分さえよければいい」という意識「歩く機会を少なくしていること」「自転車を大切にしないこと」などがあげられます。問題の解決には、自転車利用者自身も解決方法を考える必要があることを自覚しなければなりません。

まちは、みんなが協力してつくるもの。これは、都市景観のようないくつかの問題がある。一つめは、物理的なものから福祉活動のような精神的なものまでさまざまです。その中で自分の自転車を放置しないことは、「まちづくり」への貢献になると考えられます。

自分にできるまちづくりの実践が、住みやすい環境につながるまち。それは、住む人自身が築くものといえます。











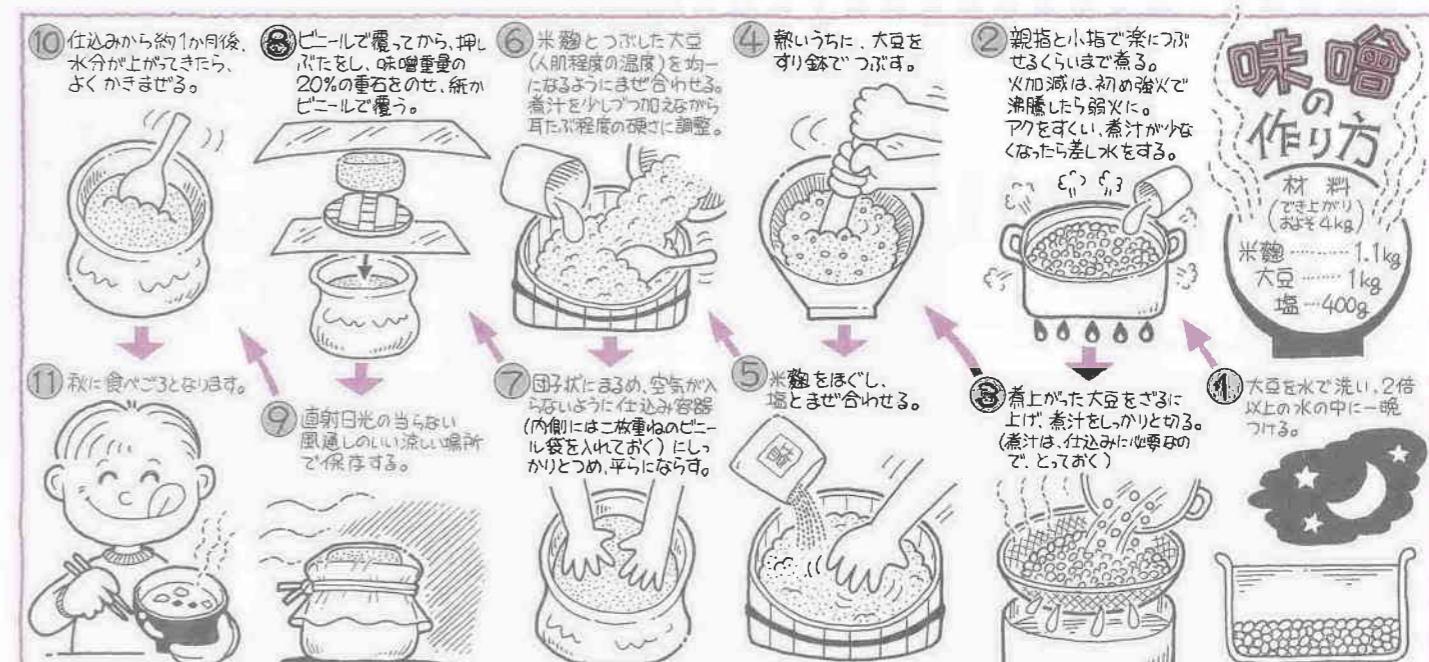
# わが家の手づくり味噌

農業ふれあいセンターの農産加工室では、数多くの市民グループによる味噌づくりが、十月から始まっています。現在、いろいろな食品が、機械化により大量生産されています。しかし、一方では、手づくり志向や自然食品が家庭で見直されてもいます。手づくり味噌もその一つ。かつては、日常的に各家庭でつくれられ、親から子へ代々受け継がれるように、日々で微妙に味も違っていました。そこには、「わが家の味」があり、「おふくろの味」といわれる味噌汁の魅力があるようです。



農業ふれあいセンターで、今年味噌づくり四年目を迎えた五十、六十歳代の主婦グループは、「材料のお米も日常食べているものを使い、添加物を入れていないものを使い安心。味も甘くておいしいので、味噌づくりはやめられない」と話していました。同じものを作りながら、仕込み場所が違うだけで出来上がりの色や味が微妙に違ってくるそうです。

作業は、自宅で水に漬けた米を同センターに持ち寄り、三日間で仕込まれます。大量の材料を大型の釜・蒸し器や電動のミンチ機などで、一度に仕上げることができます。調理台いっぱいに広げられた蒸し米は、麹菌がすり込まれ、自動発酵機へ。大豆は大釜で煮られ、ミンチ機で細かくぶされま



はーとふる

## 不用な人から、必要な人へ

### リサイクルセンターの製品販売

十一月十四日(日)、リサイクルセ

ンターで、初めてのリサイクル製品の販売が行われ、およそ二千人の市民が詰めかけました。

同センターは、再資源・再利用を目的に、六月にオープンした施設。搬入された粗大ゴミの中から再生利用可能なものを職員の手により修理。タンスやテーブルなど

の家具類八十二点が抽せんで五百円から五千円で販売され、中には

六十七倍と人気が集中したテーブ

ルセットも。午前十一時三十分か

らよいよ抽せん会が行われ、当選者が呼び上げられるたびに喜びの声が聞かれました。また、シル

バーチャンセンターで分解整備された自転車百台は「これが再製品?」と目をみはるようなものばかり。



## まちのできごと トーキングパレット 川越市の面積は109.18km<sup>2</sup>



### 愛情で美しく咲き誇る

第8回川越菊まつりが、11月1日(月)~23日(祝)に、喜多院境内で開催。千輪咲きや特別花などおよそ500点が展示されました。「夏の異常気象でも、会員の愛情で美しく咲きました」と会長の小平桂さん(70歳・霞ヶ関東3)。咲き誇る白色、黄色、ピンク色の花々が、訪れた人の目を楽しませていました。



### 健康管理は日ごろから

11月21日(日)、「広げよう健康の輪」をテーマに第7回健康まつりが、やまぶき会館と川越小学校体育館を開かれました。救急処置の体験・からだのチェックなどの催し物や、県立ガンセンター手術部長・鶴根毅さんの講演会を実施。参加者は、楽しみながら日ごろからの健康管理の大切さを学んでいました。



## 初めての海外体験

佐々木和子(46歳・小堤)

1993年6月26日、私にとって人生最高の旅といえる、オーストラリアのシドニーへ一人で旅立ちました。現地には昨年「10か月で帰る」と約束した娘がいて、「来ない?」ということばが私を悩ませていましたが、勇気を出して渡豪しました。海外旅行初めて、飛行機初めての私にとっては一大決心だったのです。

無事シドニーに着き、娘が出迎えてくれて久々の対面。この感動を始めに、旅行中で多くの感動を覚えました。緑が多くすてきな町並み、郊外には青い海、雄大な山々を見ることができ、大陸の広さと豊かさを感じました。また、牧場での体験は思い出深く、犬が羊の群れを集め様子や羊の毛刈りの見物、生まれて初めて乗馬にも挑戦しました。空気もさわやかで、私はランチに、わらじのような特大ステーキを平らげました。親しみ深いオーストラリア人との触れ合いもあり、充実したカントリーライフを楽しみました。

娘の専属ガイドで、満足な旅ができ、この旅で勇気と自信を持てたことが大きなお土産となりました。

## イラストコーナー



佐藤紀子(14歳・神明町)

# 川越の伝説80

## ハバキサマの話（古谷地区）



絵と文 池原昭治さん

古谷、下老袋にあります氷川神社は、毎年二月十一日に行われる「弓取式」または「甘酒まつり」（県指定無形民俗文化財）で有名です。あまり知られておりませんが、この神社には「ハバキサマ」と呼ばれる神さまがまつてあります。氷川さまの祭神は軍明神さまで、戦（いくさ）の神さまとしてむかしから近郷近在の人たちに親しまれ知られておりました。ところが荒川を渡った対岸には武藏（現・埼玉県）の宮として名高い大宮の氷川さまがありまして、「われこそは、天下一の軍明神なり！」とおたがいがゆりませんので、とうとう争いになり下老袋の氷川さまが負けてしまいました。そして、カブトもヨロイもボロボロになつて神社にかえつてきました。そのとき、参道に弓なりになつて植えてあります、椋（くらげ）の木の下を通りかかり、片方の足にのこつていましたハバキ（脛巾）のことで足につけますキヤバン（靴）のことです）をとり、椋の木にひつかけていきました。それから氷川神社の氏子たちは、軍明神さまをかわいそうにおもい、椋の木のことを「ハバキサマ」といつてうやまい、だいじにしたということです。以後、下老袋、氷川神社の氏子たちは毎年十二月十日、盛大に行われます大宮氷川神社の「十日市」には、けつして出かけて行かなくなつたということです。

川越市教育委員会社会教育課刊行「川越の伝説」から

## わが街川越 番組ガイド

38ch テレビ埼玉 毎週火曜日 午後5時30分～5時40分 再午後10時15分～10時25分

■一部変更になることがあります。あらかじめご了承ください。



市立博物館第1回出土品展から

12.14

TUESDAY

12.21

TUESDAY

12.28

TUESDAY

### ボランティア講座

11月24日（水）から、川越市社会福祉協議会主催の初級ボランティア講座が開かれています。ボランティア活動についての知識や技術を学ぼうと、およそ40名の参加者が集まりました。11月29日（月）の同講座の様子をお伝えします。

### 地中からのメッセージ

来年1月16日（日）まで、市立博物館で開催中の「第1回出土品展」。古くから人々の生活の舞台となってきた川越。近年、市内では多くの遺跡で発掘調査が行われています。古代から近世までのさまざまな出土品を紹介します。

### 川越1993

平成5年の川越市内の主な出来事をまとめた「わが街川越」の総集編。舟橋功一市長が就任、新しい市政が始まった今年は、川越大火百周年にあたり、まちづくりを考える川越景観百選や川越町並み博などが行われました。